

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成 19年 9月 21日

【評価実施概要】

事業所番号	2872100322		
法人名	社会福祉法人 のじぎく福祉会		
事業所名	グループホームのじぎくの里		
所在地	高砂市北浜町西浜773-3 (電話) 079-247-9206		
評価機関名	社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会		
所在地	神戸市中央区坂口通2-1-18		
訪問調査日	平成19年7月23日	評価確定日	平成19年9月26日

【情報提供票より】(平成 19年6月 23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 9 月 5 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 3人、非常勤 6人、常勤換算	9人

(2) 建物概要

建物構造	コンクリート 造り		
	5 階建ての		4 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷 金	有(200,000円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,500 円		

(4) 利用者の概要(6月23日現在)

利用者人数	9 名	0 名	女性 9 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名
要介護3	2 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	1 名
年齢	平均 83 歳	最低 69 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	井野病院 順心病院
---------	-----------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

山陽電車「大塩駅」から北西1.5kmに位置する山の中腹に、5階建ての高齢者福祉施設「のじぎくの里」があり4階がグループホームとなっている。同一敷地内には老人保健施設や障害者施設もある。ふもとは地域の自治体が「健康福祉村」を建設しており、地域で高齢者を支える協力体制があり、地域との交流も活発に行なわれている。職員は、利用者個々の把握に努め、日常の中に役割を見い出して頂けるよう働きかけ、その人らしく生きることの支援に取り組んでいる。利用者と職員が共に支えあう関係が築けている。今後は、運営推進会議等でホームの運営に関する地域の声をより積極的に反映できるよう取り組みが期待される。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 第三者4)
	家庭的な環境作りや玄関まわりの活用が課題とされ、玄関前にテーブルや椅子を設置した事で皆が立ち寄りやすくなり、自然を感じられるスペースになった。また馴染みの浴室を利用し、利用者と共にのれんを手作りして居室入り口にかけたことで、馴染みのあるくつろげる環境となるようにした。また、職員のユニホームを無くし普段着とした。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 第三者4)
	自己評価を管理者と常勤職員で行い、後で他の職員に説明することにした。評価は職員全員で取り組む事で最大の効果をもたらすことができるので 全員で評価の一連の過程を行なうことが望まれる。また、今後は改善計画を作成するなど計画的な取り組みが期待される。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 第三者4, 5, 6)
	日常生活の様子、活動計画などを説明しホームの理解を図っている。第三者評価の結果を公開し資料をもとに説明しているが、会議はまだ3回の開催であり運営推進会議のメンバーから多くの意見を引き出すところまでにはいたっていないので、今後の積極的な取り組みが期待される
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 第三者7, 8)
	訪問時や変化があればその都度連絡を密にとりケース記録の閲覧や写真など見てもらいホームでの様子を伝えるようにしている。意見が出にくいという事を理解し、聴く努力をすると共に年1回のアンケートを実施したり、玄関に「ご意見用紙」を置いている。家族会が年4回開催しているの、その場を利用し今後も意見が出しやすい環境づくりが期待される。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目: 第三者3)
重点項目	自治会に加入し、地域行事や学校行事に積極的に参加し交流に努めている。ホームが山の上にある為、ふもとの健康福祉村で車の無料送迎をしてきている。また、地域の人が畑で採れた野菜や花を届けてくださる。

2. 第三者評価報告書

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	7月に法人理念を変更し、その際に地域との関係を盛り込み、またホームとしては「めざすもの」として独自の方針が掲げられている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人理念の変更時に改めて会議等で徹底し、ミーティングや日々の申し送りなどで理解してもらうように努め、具体的なケアについての統一を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域行事や学校行事に積極的に参加し交流に努めている。ホームが山の上にある為、ふもとに地域で「健康福祉村」が設立され、車の無料送迎をしてくれているので参加しやすい。また、地域の人が畑で採れた野菜や花を届けてくださる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果はミーティングで報告し、改善に向けて取り組んだ。今回の自己評価は常勤職員と管理者で取り組み、作成したものを他の職員に後で説明することになった。		評価の一連の過程を全員で取り組むことで、職員の意識あわせや振り返りが可能となり質の確保・向上につながるので、全職員で質の向上につなげられるよう計画的な取り組みが望まれる。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>18年11月から3回の運営推進会議を実施し、第三者評価の結果報告や、日常生活の様子、活動計画などサービスの実際を報告している。会議で出た意見を活かすようにしているが、現状ではまだ多くの意見がでる状態ではない。</p>		<p>今後も、運営推進会議のメンバーから多くの意見を聞きだし、また事業所の取り組みや評価改善経過のモニター役になっていただくなど積極的な働きかけが期待される。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市担当課に用事のある時に、ホームの運営等について質問したり相談している。運営推進会議へ市の担当者の参加を呼びかけているが都合が合わず参加に至っていない。</p>		<p>これからも関係づくりを積極的に行うことが望まれる。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の訪問は月1回以上あり、その都度口頭で説明し、ケース記録の閲覧もして頂いている。アルバムはいつでも見れるように目につきやすい場所に置いている。また、年4回の家族会の際に個別に話をしている。一度便りを送ったことがあるが、現状では続いていない。</p>		<p>今後ホームとしては、ケース記録の閲覧後のサインをして頂くことを考えている。口頭のみでなく、利用者毎の様子を伝える手紙等の文書や写真を送付する等の手段も検討することが望まれる。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族には窓口や第三者委員の窓口を示している。要望があればミーティングで話し合っている。しかし、言い出しにくいという事を理解し、聴く努力をしている。年1回のアンケートを実施したり、ご意見用紙を玄関において記載してもらうようにしている</p>		<p>家族会などでは職員が席をはずして家族だけで話しやすい時間をとったり、意見用紙を毎月送付する請求書に同封するなどしてはどうか。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>原則として異動はしないようにしている。異動がある場合は、事前に本人や家族には連絡をしている。併設事業所からの異動であり、合同の行事等の際に一緒になり、顔を知っている関係であった。異動してきた職員には詳しく引き継ぎを行っている。</p>		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>常勤職員だけでなくパート職員にも認知症介護実務者研修等受講の機会を設けている。全職員が共有できるようミーティングで研修後の報告を行ない、報告書のコピーを配布している</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>2～3ヶ月に1度、近隣地域内で組織化されている2市2町グループホーム協会主催の会議に出席し交流を図っている。研修に積極的に参加している為、職員間では顔なじみの関係が築かれつつある。</p>		<p>2市2町グループホーム協会への参加を通し、さらにその中でホームの見学や交換研修などにつなげて頂くことが期待される。</p>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用前には、おやつ時などに来て頂きホームでの雰囲気を感じ取ってもらうなど短時間の滞在から開始して、馴染めるよう取り組んでいる。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員の家族のことで励まされたり、畑仕事や家事など教わることも多く一緒に過ごし、支えあう関係を築くよう努めている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	一人ひとりの思いに関心を寄せ、家族からの情報も大切にしながら本人の思いはどうかという視点で考え検討している。		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	利用前には家への訪問や、ホームに来てもらった時、また入居後も利用者本人の「私の思い」をアセスメントに記載し、本人や家族の思いを反映した介護計画を作成するようにしている。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	1ヶ月に1度サービス担当者会議を開き、職員全員で話し合いを行ない検討している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	開設4年目となりディサービスやショートステイなど職員も含め前向きに対応していきたいと考えているが、設備面の問題もあり実施には至っていない。		利用者と家族、地域住民が求める多機能性にどのように対応していくか、今後も検討を継続することが期待される。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	在宅生活からのかかりつけ医を大切に、受診できるように支援している。健康面についてその都度家族と相談し、受診結果の報告も行なっている。		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	管理者は看護師であり、かつ併設事業所の看護師が週1回訪問し健康管理を行ったり、医療処置に対応しやすくしている。重度化した場合の対応については、現在話し合いを行っている。		対応方針の共有を図る為、話し合った内容を記録しておくことが望まれる。今後、重度化に伴う家族等の意思確認書を作成するなどしてはどうか。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	ミーティングなどで全体で話しをし、日常的な確認を行なっている。トイレ誘導も耳もとでそっとささやく等、職員は目立たず、さりげない言葉かけとなるよう配慮している。		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	基本的な一日の流れはあるが、個々のペースに沿って生活できるようにしている。起床時間、食事時間を強制せず、日中の過ごし方も自由にできるようにしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日買い物に出かけ、献立を決めたり調理や片付けも含め利用者と共に取り組んでいる。時々ホームの畑で育てた野菜を使用している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	おおまかな入浴時間帯は決まっているが、夜間を含め希望に応じて入浴できるようにしている。一人用の浴室であるが、希望により二人で入られることもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	何がその人の役割、楽しみになるかを把握し支援している。裁縫、調理、農作業などの経験や知恵を発揮する場面を作っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くに地藏尊があり、毎日散歩に出ている。玄関前にくつろいで座れる場所があり外気浴をしながら自然を感じられるようになっている。小グループでの外出に取り組んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は施錠するが、日中は鍵をかけず自由に入出りできるよう支援している。身体拘束に関して話し合いを行って注意を払い、見守るようにしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年間計画に沿って2～3ヶ月に1回程度訓練を実施している。建物施設全体でも行なうが、ホーム独自でも避難訓練など行なっている。6月には地域住民と災害想定訓練を行い備蓄食の試食も行なった。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量、水分量は記録し把握できるようにしている。また、栄養バランスについては併設施設の管理栄養士に相談し助言を受けている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>周りの景色に応じて自然を感じとれるよう意識的に声をかけ、自然の風や光を取り入れるようにしている。育てた花を玄関やリビングなどに生けている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>タンスはホームに備え付けてあるが、使い慣れた布団や椅子、写真や小物などを持参してもらって、居室の入り口には、利用者がかつて着ていた浴衣でのれんをつくり飾っている。</p>		

 は、重点項目。